

# 麦野C遺跡 11

—麦野C遺跡第18次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1464集

2022

福岡市教育委員会



# 麦野C遺跡 11

—麦野C遺跡第18次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1464集



調査番号 1948  
遺跡略号 MGC-18

2022

福岡市教育委員会



# 序

古くから玄界灘を介して大陸との交流が絶え間なくおこなわれ、文化交流の門戸として発展を遂げてきた福岡市には、歴史的遺産が数多く残されています。近年の著しい都市化により失われるこれらの文化財を後世に伝えることは、本市の重要な責務です。

本書は、共同住宅に伴う麦野C遺跡第18次発掘調査について報告するものです。この調査では中世後半期の大溝や土坑を検出しました。これらは地域の歴史の解明のためにも重要な資料となるものです。今後、本書が文化財保護に対する理解と認識を深める一助になるとともに、学術研究の資料としてもご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、照栄建設株式会社様をはじめとする関係者の方々には発掘調査から本書の作成に至るまでご理解とご協力を賜りました。心から感謝申し上げます。

令和4年3月24日

福岡市教育委員会

教育長 星子 明夫

## 例　　言

1. 本書は博多区麦野6丁目の共同住宅建設に先立って福岡市教育委員会が実施した麦野C遺跡第18次調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査と整理報告は三浦悠葵が担当した。遺構の実測は三浦、遺物の実測は三浦、遺構・遺物の写真撮影、製図は三浦、編集・執筆は三浦が行った。
3. 本書で示す座標は、世界測地系を使用している。
4. 遺構の略号は、以下の通りである。  
SD：溝 SK：土坑
5. 掃囲の縮尺は、各図に添付したスケールで示す。写真図版の縮尺は全て任意である。
6. 土器の実測図では、断面によって以下のように種類の違いを示した。  
弥生土器・土師器・陶磁器 □ 須恵器 ■
7. 各調査の出土遺物や実測図、写真などの記録類は福岡市埋蔵文化財センターに収蔵、保管する予定であるので、広く活用されたい。

遺跡名	麦野C遺跡	遺跡登録番号	0050	分布地図番号	012
次 数	18	調査番号	1948	略号	MGC-18
調査面積	320m <sup>2</sup>	期間	2019年10月16日～2019年11月29日		
調査地	福岡市博多区麦野6丁目13番5				

## 目 次

I.	はじめに	1
1.	調査に至る経緯	1
2.	調査の組織	1
II.	遺跡の立地と環境	2
III.	調査の記録	5
1.	調査の方法と経緯	5
2.	調査の概要	5
3.	遺構と遺物	5
IV.	まとめ	12

## 挿図目次

第1図	周辺の遺跡 (S = 1/25,000)	第8図	S K 006・007 (S = 1/40)
第2図	麦野C遺跡調査地点 (S = 1/5000)	第9図	S K 0008・009 (S = 1/40)
第3図	第18次調査区配置図 (S = 1/500)	第10図	S K 031 (S = 1/40・遺物 1/3)
第4図	遺構配置図 (S = 1/150)	第11図	その他の遺物 (S = 1/3)
第5図	S D 004 (S = 1/100, 土層断面 1/40)		
第6図	S D 004 出土遺物 (S = 1/3)		
第7図	S D 005 および出土遺物 (S = 1/100・土層断面 1/40・遺物 1/3)		

## 図版目次

P L. 1	(1) 1区全景 (南から)
P L. 2	(1) 2区全景 (北から)
P L. 3	(1) S D 001 (南西から) (2) S D 004 南角 (南西から) (3) S K 006 (北東から) (4) S K 007 北半 (西から) (5) S K 030・031 (北西から) (6) 出土遺物①
P L. 4	(1) 出土遺物②

# I. はじめに

## 1. 調査に至る経緯

福岡市教育委員会は、同市麦野6丁目13番5における共同住宅建設に伴う埋蔵文化財の有無についての照会を令和元年7月30日付で受理した（事前審査番号2019-2-476）。これを見て埋蔵文化財課事前審査係は、申請地が周知の埋蔵文化財包蔵地である吉塚遺跡に含まれていること、令和元年4月23日に実施した試掘調査により現地表面下40cmで遺構が確認されていることから、遺構の保全等に関して申請者と協議を行った。その結果、埋蔵文化財への影響が回避できないことから、建物建設部分について記録保存のための発掘調査を実施することで合意した。その後、令和元年9月9日付で照栄建設株式会社を委託者、福岡市長を受託者として埋蔵文化財発掘調査業務委託契約を締結し、同年10月16日から発掘調査を、翌令和2・3年度に資料整理および報告書作成をおこなうこととなった。

## 2. 調査の組織

調査委託：照栄建設株式会社

調査主体：福岡市教育委員会

（発掘調査：令和元年度・資料整理：令和2・3年度）

調査総括：文化財活用部埋蔵文化財課

課長 菅波正人（元～3年度）

同課調査第2係長 大塚紀宜（元年度）

藏富士寛（2・3年度）

事前審査：

同課事前審査係長 本田浩二郎（元・2年度）

田上勇一郎（3年度）

同課事前審査係主任文化財主事 田上勇一郎（元・2年度）

森本幹彦（3年度）

同課事前審査係文化財主事 朝岡俊也（元年度）

山本晃平（2・3年度）

調査担当：

同課調査第2係文化財主事 三浦悠葵（元年度）

庶務：文化財活用課

管理係長 藤原己（元年度）

大森秋子（2年度）

石川あゆ子（3年度）

管理係 松原加奈枝（元・2年度）

井手瑞江（3年度）

内藤愛（3年度）

## II. 遺跡の環境と立地

麦野C遺跡は福岡市の南端にあり、春日丘陵の東側丘陵上に立地する。この丘陵の東側には御笠川、西側には諸岡川が流れ、これらの河川による開析により丘陵は5つの低丘陵に分かれる。丘陵上には北からそれぞれ麦野A遺跡、麦野B遺跡、麦野C遺跡、南八幡遺跡、雜餉隈遺跡、中ノ原遺跡が分布する。麦野C遺跡は丘陵の東部に位置しており、東西約400m、南北約800mの範囲に広がる遺跡である。春日丘陵には奴国王墓とされる須玖岡本遺跡が立地し、周辺には須玖永田遺跡、須玖五反田遺跡などが分布する。

雜餉隈の丘陵では最も古い遺物として麦野A遺跡、麦野B遺跡、雜餉隈遺跡で旧石器時代の石刃や剥片が出土しており、台地上の広範囲に遺物出土域が分布する。

縄文時代になると麦野B遺跡、南八幡遺跡、中ノ原遺跡で落とし穴と考えられる土坑を検出しているが、明確な時期は不明である。また麦野C遺跡では遺構は見られないものの第3次調査で当該期の石鏃が出土している。

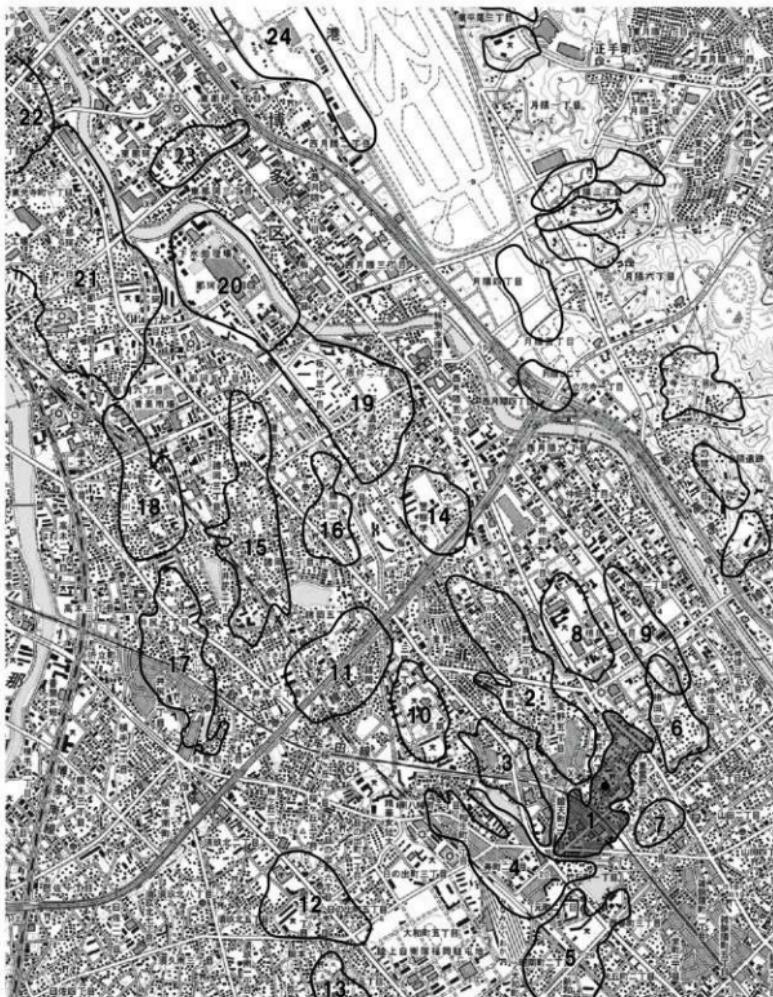
弥生時代になると丘陵全体で遺構が増大し、集落の拡大が見て取れる。前期の遺構は雜餉隈遺跡で円形の竪穴住居跡や貯蔵穴からなる集落跡を検出しており、大規模かつ中心的な集落が展開していた可能性が示されている。また麦野A遺跡、麦野C遺跡第12次調査でも貯蔵穴群を検出しており、雜餉隈の丘陵北部にも集落が広がることが確認されている。中期の遺構は麦野C遺跡で方形の竪穴住居跡を検出している。後期の遺構は雜餉隈遺跡、南八幡遺跡でも同様の住居跡が見られるが、前代と比較して分布密度は低くなる。一方で南八幡遺跡にガラス小玉を伴う掘立柱建物や連鈎式の銅鑄鉢型を伴う竪穴住居跡がみられ、この時期の丘陵は南縁から西縁で小規模な工房を営む集落を営んでいたことが推察される。

古墳時代の遺構は希薄であり、特に前期から中期の遺構・遺物は殆ど見られない。後期には南八幡遺跡で住居跡を検出しており、集落の展開が確認されている。

古代には再び大規模な集落域が出現する。7世紀末から8世紀初めには方形に配置された大型の掘立柱建物群が出現する。この建物群の規模と規格性の高い配置から官衙的な性格を有する可能性が指摘されている。8世紀には集落が丘陵の全体に展開し、特に雜餉隈遺跡と麦野C遺跡1次調査、5次調査、13次調査では複数の住居跡が検出しており、丘陵において拠点的な集落であったことが指摘される。

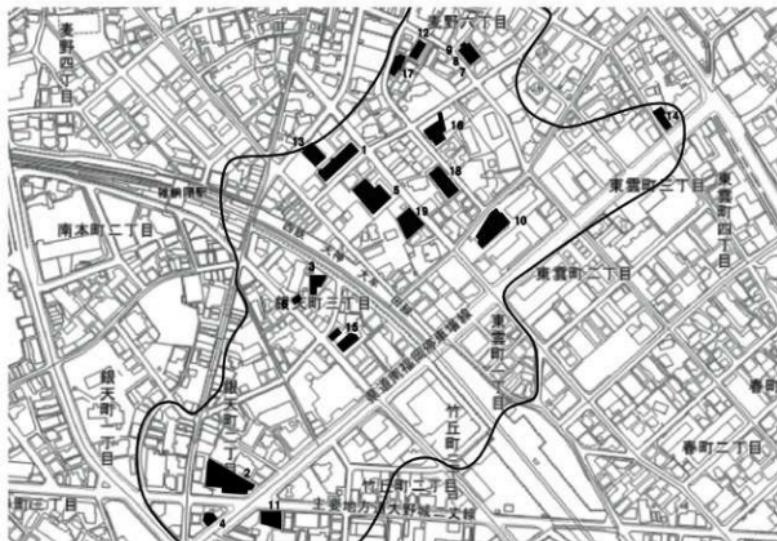
平安時代には再び集落が縮小傾向となり、遺構は井戸や土坑などを検出している。

15～16世紀には麦野C遺跡10次調査、18次調査、19次調査で大溝を検出しており、18・19次調査の溝は一連の区画溝であることから居館等の施設が営まれていたことが推察される。

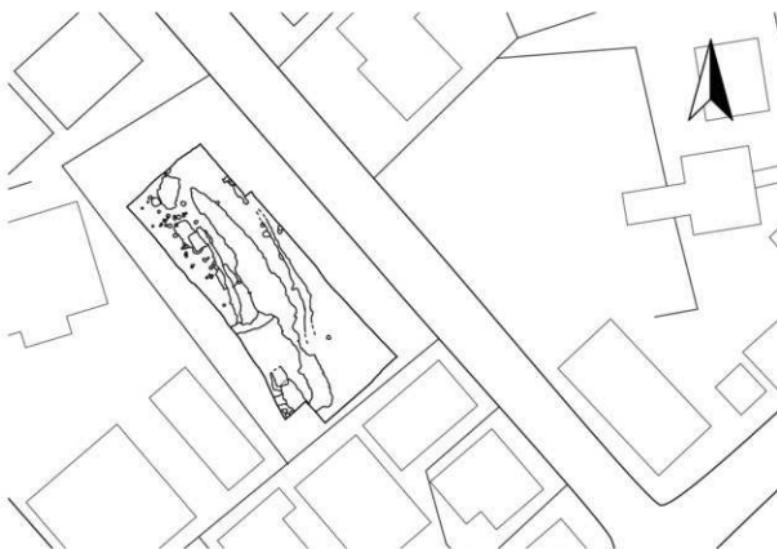


1. 麦野C遺跡 2. 麦野A遺跡 3. 麦野B遺跡 4. 南八幡遺跡 5. 雑餉隈遺跡 6. 井相田A遺跡  
7. 井相田B遺跡 8. 井相田C遺跡 9. 仲島遺跡 10. 三筑遺跡 11. 笹原遺跡 12. 須久遺跡 13. 岡本遺跡  
14. 高畠遺跡 15. 諸岡A遺跡 16. 諸岡B遺跡 17. 井尻B遺跡 18. 五十川遺跡 19. 板付遺跡 20. 那珂君体遺跡  
21. 那珂遺跡群 22. 比恵遺跡群 23. 東那珂遺跡 24. 鶴居遺跡 ● 18次調査地

第1図 周辺の遺跡 ( $S = 1/25,000$ )



第2図 麦野C遺跡調査地点 (S = 1/5000)



第3図 第18次調査区配置図 (S = 1/500)

### III. 調査の記録

#### 1. 調査の方法と経緯

調査区は廃土処理の都合上南北に分け、北側を1区、南側を2区として調査を実施した。10月16日に機材搬入と重機による1区の表土掘削を行い、11月13日まで1区を精査した。11月14日から15日に1区の埋め戻しと2区の表土掘削を行い、11月28日まで2区の精査をし、29日には調査を終えて埋め戻し、機材搬出を行い全ての調査を終了した。調査は後述する鳥栖ローム層までを重機で掘削した。

#### 2. 調査の概要

18次調査区は麦野C遺跡の中央やや南側に位置し、調査地東側には日吉神社が隣接する。現況は平坦で現況地表面は標高約17.7mを測る。客土の直下、地表下40cmで鳥栖ローム層を検出し、この上面で遺構を検出した。鳥栖ローム層は後世の造成によって地形が改変されており、特に調査区中程は南側との高低差が60cm以上あり削平が著しい。

主な遺構は中世後半の溝と土坑である。遺物は土師皿・貿易陶磁器を中心にコンテナケース3箱ほど出土した。遺構の時期は異なるものの、少量の弥生土器・須恵器も出土している。

#### 3. 遺構と遺物

1) 溝 8条の溝を検出した。内4条は近代以降の溝であり、中世以前の溝はSD001、SD004、SD005、SD037である。

##### SD001

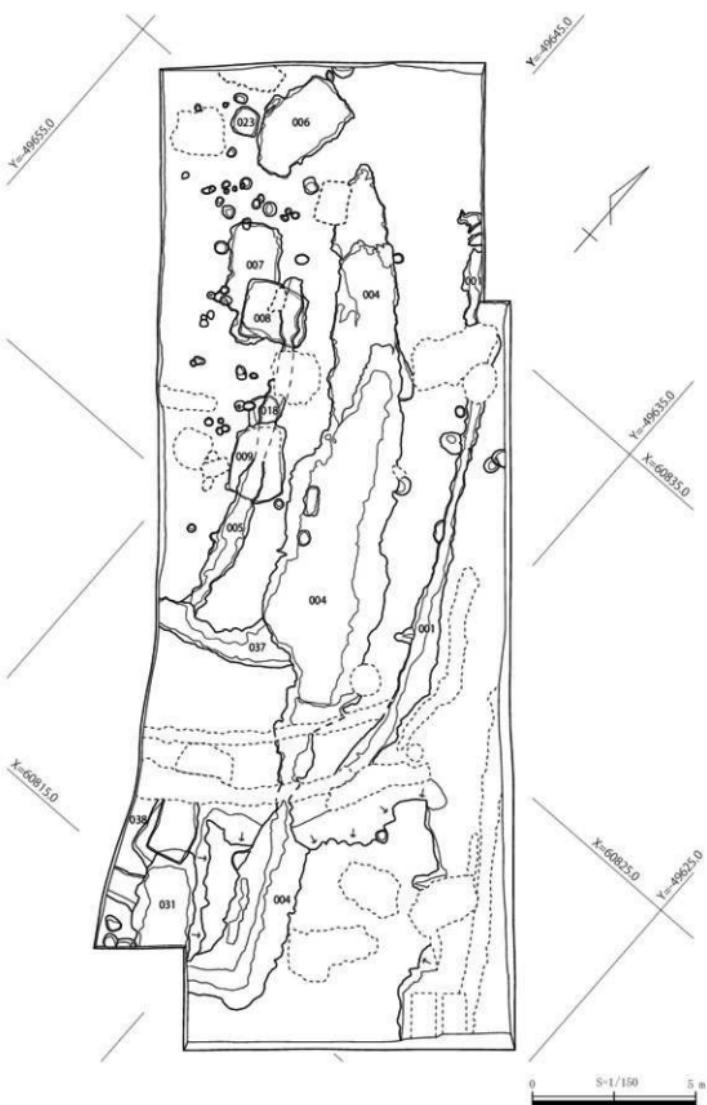
検出長15.7m、最大幅106cm、深さ42cmを測る。北東から南西方向に延び、南端は攪乱によつて消失する。遺物は少量だが土師質の鉢が出土しており、遺構の時期は15世紀～16世紀頃と考えられる。

##### SD004(第5・6図)

調査区を縦断する。削平により溝の中程は底部付近を残して消失する。溝は調査区南側ではほぼ直角に屈曲し、北東から南西方向に26.5m、北西から南東方向に2.5m以西は調査区外へ続く。溝の北東側は徐々に浅くなり消失する。最大幅373cm、深さは最も深い箇所で74cmを測る。溝北側は断面逆台形を呈し、南側は断面V字形を呈す。北側で最低2回、南側で最低3回の掘り返しが確認される。遺物は土師皿を主体として貿易陶磁器等が出土した。遺構の時期は15世紀後半～16世紀前半頃。

遺物

1～4は土師皿である。底部は全て回転糸切りである。1は復元口径7.2cm、復元底径5.2cm、器高1.3cmを測る。暗灰褐色を呈す。2は口径7.0cm、底径3.6cm、器高1.3cm。赤褐色を呈す。3は口径7.0cm、底径4.8cm、器高1.3cm。灰褐色を呈す。4は口径7.2cm、底径6.0cm、器高1.6cm。淡褐色を呈す。5は素焼きの蓋である。蓋部の径4.8cm、器高2.0cmを測る。橙褐色を呈し、内面に段をもつ。平坦面部分は回転糸切りの痕跡が残る。6は龍泉窯系青磁碗である。外面に鎬蓮弁文を有する。7は白磁碗である。復元口径12.0cm、復元底径6.0cm、器高2.7cmを測る。8は瓦質土器の



第4図 遺構配置図 (S = 1/150)

## SD 004

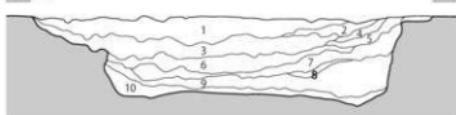
A - A'

H=17.1m



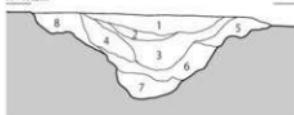
B - B'

H=17.1m

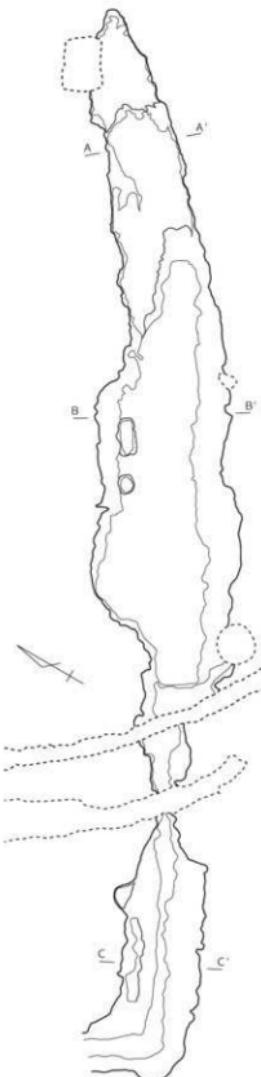


C - C'

H=17.5m



0 S=1/40 100cm



A - A'

1. 咸褐色粘質土  $\phi 0.5 \sim 2.0\text{cm}$  の鳥糞ロームブロックの隙間に咸褐色土を含む。
2. 咸褐色粘質土  $\phi 0.5 \sim 1\text{cm}$  の鳥糞ロームブロック、 $\phi 1\text{cm}$  の八女粘土ブロックを含む。
3. 咸褐色土  $\phi 5\text{mm}$  の鳥糞ロームブロックを中～多量。 $\phi 5\text{mm}$  の八女粘土ブロックを少量含む。

B - B'

1. 咸褐色土  $\phi 2 \sim 5\text{mm}$  の鳥糞ロームブロックを中量含む。
2. 黒褐色土  $\phi 1 \sim 2\text{cm}$  の八女粘土ブロックを少量含む。
3. 咸褐色土  $\phi 5\text{mm}$  の鳥糞ロームブロックを少量含む。
4. 咸褐色土  $\phi 0.5 \sim 3\text{cm}$  の鳥糞ロームブロックを少量含む。
5. 咸褐色土  $\phi 0.5 \sim 1\text{cm}$  の八女粘土ブロックを少量含む。
6. 咸褐色土  $\phi 1 \sim 2\text{cm}$  の黒褐色土ブロックをわずかに含む。
7. 咸褐色土
8. 咸褐色土
9. 褐色土  $\phi 5\text{cm}$  の鳥糞ロームブロックを中量含む。
10. 咸褐色土

C - C'

1. 咸褐色土  $\phi 3 \sim 5\text{mm}$  の鳥糞ローム粒を少量含む。
2. 咸褐色土 1層とば同質だがやや色調明く、鳥糞ローム粒を含まない。
3. 咸褐色土  $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  の鳥糞ローム粒を全体に中量含む。
4. 咸褐色土  $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  の鳥糞ローム粒を多量に含む。
5. 咸褐色土  $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  の鳥糞ローム粒を中量含む。
6. 咸褐色土 5層よりやや含みが強い。
7. 咸褐色土  $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  の鳥糞ローム粒を中量含む。
8. 咸褐色粘質土 鳥糞ローム層に少量の咸褐色土を含む。

第5図 SD 004 (S = 1/100, 土層断面 1/40)

擂鉢である。下部のみ残存し、復元底径10.4cmを測る。内面に4本単位のすり目を施す。

#### SD 005 (第7図)

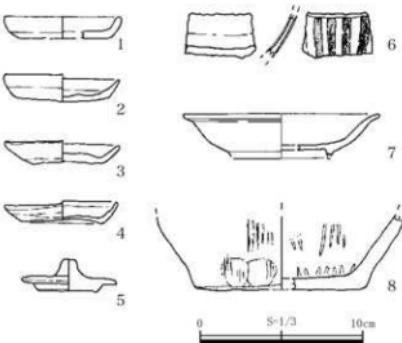
調査区西側を北東から南西方向に縦断する。検出長10.9mを測る。SD037に切られ、溝の南端はSD037内で収束するようである。最大幅85cm、深さ18cmを測る。遺物は土師皿等が出土した。遺構の時期は15世紀頃。

#### 遺物

9は土師皿である。口径6.4cm、底径5.2cm、器高1.3cmを測る。10は土師質の鍋である。胴部のみ残存し、突帯を境に外反する。外面は突帯下部全体に厚く煤が付着する。

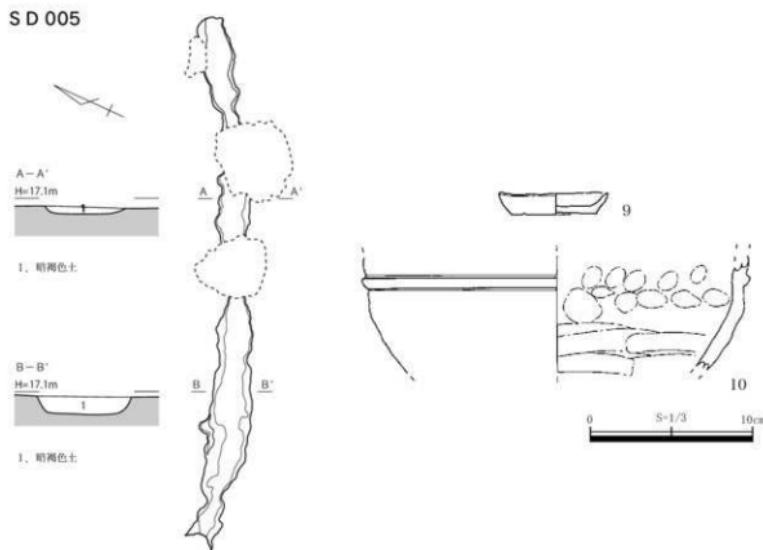
#### SD 037

調査区西側を東西方向に横断する。検出長4.2m、最大幅150cm、深さ18cmを測る。SD004に切られる。遺物は小片のみであり時期の特定は困難だが、SD004、005との切り合いから遺構の時期は15世紀頃と考えられる。



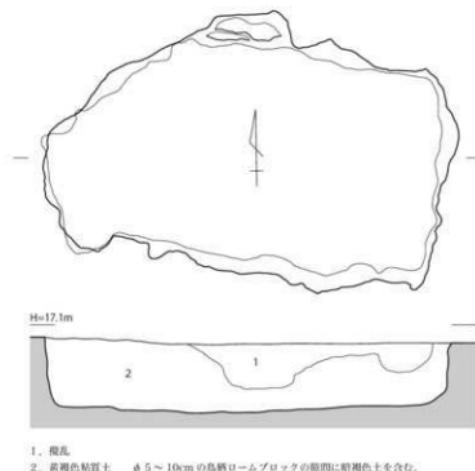
第6図 SD 004 出土遺物 (S = 1/3)

#### SD 005

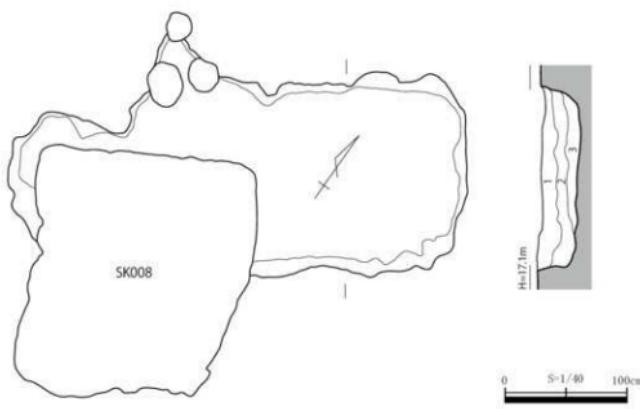


第7図 SD 005 および出土遺物 (S = 1/100・土層断面 1/40・遺物 1/3)

SK 006



SK 007



第8図 SK 006・007 (S = 1/40)

2) 土坑 8基の土坑を検出した。中世以前の土坑は SK 006、007、008、009、031 の 5基である。  
SK 006 (第8図)

調査区北側で検出した。長さ 332cm、最大幅 212cm、深さ 56cm を測る。遺構埋土は鳥栖ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする。遺物は小片のみであり時期の比定はできない。

SK 008



SK 009



第9図 SK 008・009 (S = 1/40)

**SK 007 (第8図)**

長さ 373cm、最大幅 157cm、深さ 30cm を測る。埋土は鳥栖ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする。遺物は出土しなかった。

**SK 008 (第9図)**

長さ 177cm、最大幅 196cm、深さ 44cm を測る。埋土は鳥栖ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする。遺物は出土しなかった。

**SK 009 (第9図)**

長さ 242cm、幅 167cm、深さ 39cm を測る。埋土は鳥栖ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする。遺物は出土しなかった。

**SK 031 (第10図)**

北側はSK030に切られ、南側は調査区外に続く。検出長さ 341cm、最大幅 191cm、深さ 111cm を測る。遺物は土師皿が出土した。遺構の時期は 15 世紀頃。

遺物

11～13 は土師皿である。底部は全て回転糸切りである。11 は復元口径 7.2cm、復元底径 8.6cm、器高 3.5cm を測る。浅褐色を呈す。12 は復元口径 13.4cm、復元底径 8.2cm、器高 3.1cm を測る。灰褐色を呈す。11・13 より堅い。13 は復元口径 11.6cm、復元底径 7.0cm、器高 2.6cm を測る。淡褐色を呈す。

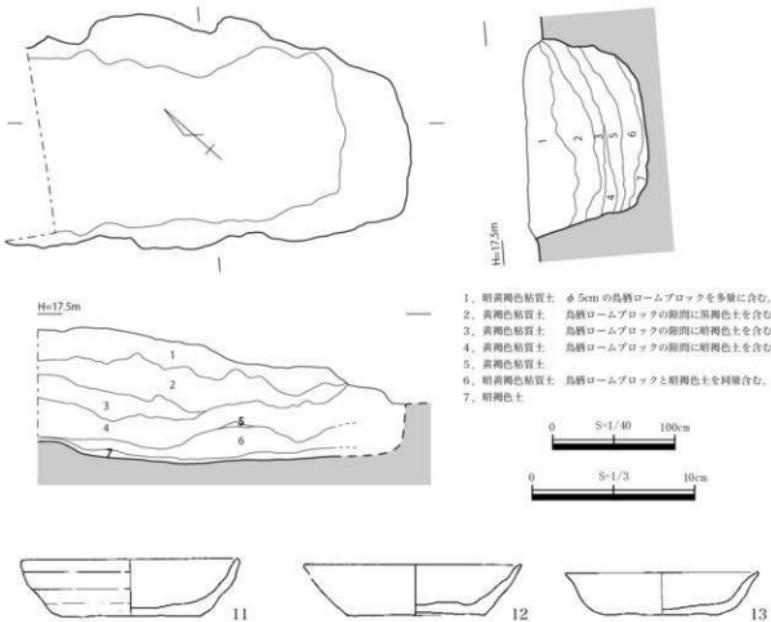
**SK 038**

SK031 に切られる。残存長 212cm、残存幅 58cm、深さ 58cm を測る。

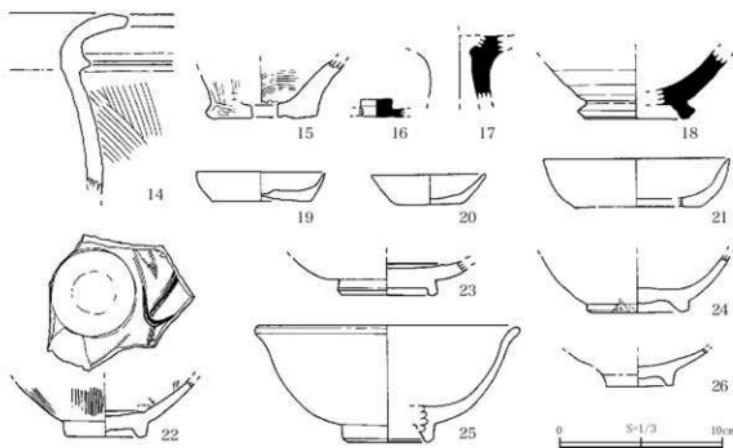
### 3) その他の遺物 (第11図)

14は弥生土器の甕である。胎土は石英粒を多量に含み、外面をナナメ方向のハケにより調整する。15は弥生土器の底部である。復元底径6.0cmを測り、底部に直径1.6cmの焼成前穿孔をほどこす。16は須恵器の蓋である。ツマミの断面形は方形を呈す。17は須恵器の高坏である。脚部のみ残存する。18は須恵器の壺である。底部から胴部下半にかけて残存しており、復元底径6.4cmを測る。19～21は土師皿である。底部は全て回転糸切りである。19は口径8.0cm、底径6.0cm、器高1.7cmを測る。明橙褐色を呈す。中心に穿孔が施される。20は口径7.2cm、底径4.2cm、器高1.9cmを測る。淡い褐色を呈す。21は復元口径11.4cm、復元底径7.8cm、器高3.0cmを測る。淡褐色～灰褐色を呈す。22は同安系青磁碗である。底径5.0cmを測る。内外面に櫛描文を施す。23は龍泉系青磁碗である。底径5.6cmを測る。24は龍泉系青磁碗である。底径6.2cmを測る。25は青磁碗である。復元口径16.2cm、復元底径5.0cm、器高7.0cmを測る。26は朝鮮系の青磁である。底径4.0cmを測る。

SK 031



第10図 SK 031 (S = 1/40・遺物 1/3)



第11図 その他の遺物 ( $S = 1/3$ )

#### IV.まとめ

今回の調査では溝4条と土坑4基、その他複数のピットを検出した。

遺物は遺構より古い時期のものとして弥生土器の甕片、古代の須恵器片、玉縁口縁の白磁片などが出土した。いずれも攪乱や後世の遺構から出土しており、同時期の遺構は全く見られない。当調査地は東側に隣接する日吉神社より80cm以上低く、表土直下で鳥栖ローム層を検出することからも既に大幅な削平を受けており、土壇や溝といった一部の深い遺構のみが残存している状況であることが見て取れる。調査地西側でおこなわれた5次調査では弥生時代と古代、12～13世紀の濃い遺構分布が見て取れ、今回の調査でも同様の時期の遺物が出土していることから、本来は周辺同様当地にも弥生時代、古代の生活域が広がっていたものと考えられる。

遺構はいずれも15世紀～16世紀頃に属す。遺物は少量だが土師皿・土師壺を中心に貿易陶磁器等が出土している。SD004は幅3mの大溝であり、調査区南側で直角に曲がっている。西側でおこなわれた19次調査で東西方向の溝の続きを検出しており、一帯に区画溝が巡っていたと考える。土壇は特に遺物が少なく時期と性格の認定が困難だが、SK031とSD004の切り合いからは大溝に後続するものであり、SK031と埋土が類似するSK006、007、008、009もおおむね同じ時期のものである可能性が高い。申請地の周辺では10次調査で15世紀から16世紀の大溝SD01、05を検出している。今回検出したSD004は居館ないし山城などの施設の区画溝と考えられ、中世後半期の当地の利用状況がうかがえる。



(1) 1区全景 (南から)



(1) 2区全景(北から)



(1) SD 001 (南西から)



(2) SD 004 南角 (南西から)



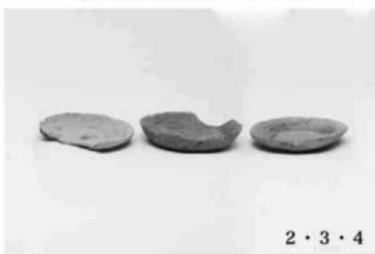
(3) SK 006 (北東から)



(4) SK 007 北半 (西から)



(5) SK 030・031 (北西から)



2・3・4

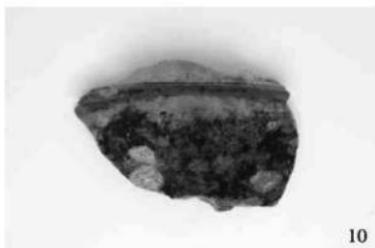
(6) 出土遺物① (数字は遺物番号)



5



8



10



14



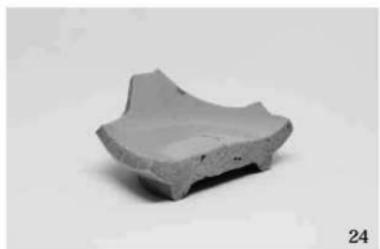
15



22



23



24



25

(1) 出土遺物② (数字は遺物番号)

報 告 書 抄 錄

ふりがな	むぎのCいせき II							
書名	麦野C遺跡 II							
副書名	—麦野C遺跡第18次調査報告—							
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第1464集							
編著者名	三浦 悠葵							
編集機関	福岡市教育委員会							
所在地	〒810-8621 福岡市中央区天神1丁目8番1号							
発行年月日	2022年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 m <sup>2</sup>	発掘原因	
むぎの C いせき 麦野 C 遺跡	ふくおかんふくおかしひかたく 福岡県福岡市博多区 むぎの 6ちょうめ 7-11 麦野 6 丁目 7-11	40132	50	33° 32° 50°	130° 27° 55°	2019.10.16 ～ 2019.11.29	320	記録保存 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
麦野C遺跡	集落	中世	溝	土師器、貿易陶磁器				
要約	調査地は遺跡の中央部に位置する。調査地の西側では1次・5次調査が行われおり、弥生時代前半～後期初頭の竪穴住居を主体として古代、中世の遺構が見られる。 今回の調査では、地表から約40cm掘り下げた地点で鳥居ローム層を地山とする遺構面を検出した。遺構は溝4条と大型の土壙7基、ピットを検出した。幅3mを測る大溝S D 004は調査区南端ではほぼ直角に屈曲し、方形区画と考えられる。遺物は土師皿を主体として貿易陶磁器が出土している。少量の弥生土器や須恵器も出土しており、本来は当該期の遺跡も広がっていた可能性が高い。検出した遺構の時期はいずれも15～16世紀頃のものであり、特にS D 004は中世後半の居館や山城等に関連するものと考えられる。							

## 麦野C遺跡 11

—福岡市埋蔵文化財調査報告書第1464集—

令和4年3月24日

発行 福岡市教育委員会  
福岡市中央区天神1丁目8番1号

印刷 株式会社 NK企画  
福岡市中央区高砂1丁目6-19  
(092) 982-0037



